

●事務局体制

東京事務所
伊藤多栄子、岩本孝孝、佐谷隆一、ゾリグト・アズサヤ、
能智和美、野村政道、眞栄城好香、吉岡健治、渡辺悠斗
ブノンベン事務所
辰川はる奈、山岸真喜子、バン・ラス、
マオ・カナリン、ノウ・チャンタ、スレン・キムヘン、
ホン・ソダツ、ヒム・サヴィー

- ◆ブノンベン事務所 矢加部映職員が2022年7月31日付で退職。
- ◆東京事務所 立石義明顧問が2022年10月29日ご逝去されました。
ご生前のご厚情を深く感謝し、心からのご冥福をお祈りいたします。

●今後のイベント

【2023年 7/29 (土)】天満敦子チャリティ・コンサート
@ 浜離宮朝日ホール

※上記以外のイベントを開催する際は、
ホームページやメルマガでお知らせします。

／ 編集後記

今回のJHP NEWSでは、ネパール学校贈呈式の特集記事を中心に
お届けしました。今回学校調査で過去建設校を訪問した際、
どこも一生懸命に学ぶ子ども達の真剣な眼差しで溢れていた、
とのスタッフの報告もありました。新たに完成した学校に通う生
徒達の未来の可能性も、これから更に広がっていくことを願って
やみません。今後の活動もぜひご期待ください。(編集事務局)

スペシャルサポーター 藤原紀香さん ＊チャリティ講演会・写真展開催のご案内＊

JHPのスペシャルサポーターを務めて下さっている、藤原紀香
さんが、この度、イベント(青梅佐藤財団主催)にてチャリティ
講演会・写真展をされることとなりました。

JHPも今回イベントサポートを行っています

ので、下記ご案内いたします。

皆さま、奮ってご参加ください。

＊チャリティ講演会＊
.....

◇2023年 1月29日 (日) 13時開場 14時開演

@羽村市生涯学習センター・プリモホールゆとりぎ大ホール

◇入場料: 当日チャリティ募金 (金額自由)

◇チケット (全席指定) 申込方法:

右のQRコードより読み取り、ご覧ください。

<http://www.sato-zaidan.or.jp/r04/1event/230129.html>

.....

＊チャリティ写真展＊

◇1月25日 (水) ～2月3日 (金) 10時～18時

@羽村市生涯学習センター・プリモホールゆとりぎ展示室

◇入場料: 当日チャリティ募金 (金額自由)



会費支払



当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。
JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。
・年会費: 一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円
・上記それぞれ「正会員」・「賛助会員」が選択いただけます

◆「正会員」: 定例総会や臨時総会の出席資格、議決権
を持てます

会費は控除の対象にはなりません

◆「賛助会員」: 定例総会や臨時総会に出席できませんが、
議決権を持てません

会費は寄付と同様に税法上所得控除の
対象となります

□座名 : 特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
郵便口座: 00110-4-356264
銀行口座: みずほ銀行赤坂支店 普通 1844676

※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。

期限前の支払いも可能です。

※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。

※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。

※転居された際は新住所をお知らせ下さい。

＊JHPリーフレットが リニューアルされました＊

この度、JHPのリーフレットが

『教育支援で子どもたちの未来の可能性が広がる』をテーマに、明るくポッ

プなデザインに生まれ変わりました!

JHPの活動内容が一目で分かるデザ

インとなっています。

ご友人やお知り合いへご紹介の際に

も、ぜひお役立てください!

新リーフレットを始めとするJHPの資料請求をご希望の方は、

こちらへお気軽にご連絡ください! ▶ tokyo-office@jhp.or.jp



JHPのホームページから、

クレジットカード (VISA/MASTER) で

会費・寄付金のお支払いができます!

該当ページ▶



◆郵送費削減にご協力頂ける方には、Eメールにて会報を
配信いたしますので、下記連絡先までメールアドレスを
お知らせください。連絡先: tokyo-office@jhp.or.jp

「JHPニュース Vol.81」(2022年12月号)

発行元: 認定NPO法人 JHP・学校をつくる会

発行人: 小山内美江子

編集人: 眞栄城好香

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2

鈴木ビル2階

TEL: 03-6435-0812

JHP NEWS

2022.12

vol. 81

特集 ネパールで新しい学校の贈呈式が行われました!

コロナ禍で約3年越しに行われたネパール学校贈呈式の様子と
カンボジアでの最新の活動報告をお届けします!



認定NPO法人

JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

ネパール学校建設

約3年越しにネパールで5校の学校贈呈式が行われました！



ネパール国旗を持って歓迎のパフォーマンスを披露してくれた子どもたち

ネパールでの学校建設事業は、ネパール東南部に位置する**ジャバ県**で2011年からスタートしました。ジャバ県では、学校は機能しているものの、**校舎数が足りず、子ども達は教室の基準に達しないような狭く、設備の不十分な教室で勉強をせざるを得ない状況があります。**

こうした課題を解決し、ネパールの特に僻地に住む子ども達がのびのびと学ぶことのできる学校づくりを目指し、JHPはこれまでに19校の学校を支援してきました。この度、コロナ禍で延期されていた5校の学校贈呈式を現地で開催できましたので、その様子をお届けします！



ネパール贈呈式に参加された皆さまの声

「子ども達の瞳に感動しました。光った瞳は、素直で素朴な印象を受けました。この子たちが学べる学習舎を建てる事が出来たことは、私にとって生涯忘れない思い出となりました。ネパールという国で、少しでもお役に立てた事は、私にとって大きな喜びとなりました。」

「今までネパールに来たことがなかったが、今回の贈呈式を通してネパールの方々が身近な存在になり、現地の人々に何かしてあげたいという気持ちが湧きました。」

「実際に場の雰囲気や子どもたちの表情を見て、良い経験になりました。」

「私たちがいかに不自由なく過ごしているか、分かりました。」

「実際に現場の様子を目の当たりにして、ギャップを感じました。」

「ネパールに貢献出来てよかったです。これからもぜひ活動に貢献していきたいです。」

校舎を寄贈していただきましたH様、A様、K様、G様には、JHPスタッフ一同、心より感謝申し上げます。寄贈した校舎が子どもたちの未来の礎となることを願っております。

また学校贈呈式と並行して、この度これまで建設した学校と建設候補校の調査を実施しました。調査を通して、タッチパネル式の黒板やパソコン、ソーラーパネルといった設備を導入している学校がある一方で、ほとんどの調査校に共通して、トイレの不足が課題として挙げられました。300〜500人規模の生徒数に対し、トイレが2〜3か所しか設置されていない学校では、校長先生への聞き取り調査によると、休み時間にトイレで用を足すために待つ子どもたちで溢れる、という状況があるとのことでした。課題はトイレの不足以外にも、教室に設置されている扇風機の不足や乳幼児クラスの教室不足も明らかになりました。

それぞれの学校が抱える課題に対し、少しでも解決に至るための助けができるよう、現地ローカルスタッフと連携をとりながら、JHPはできることからはしめようこそをモットーに、これからも活動を続けて参ります。



調査校のパソコンルーム



贈呈式には多くの方々が集まりました 支援者様からの贈り物を受け取る子どもたち



新しい机、椅子と一緒に記念撮影



校門前で子ども達が列を成して待っていてくれました



11/4

アムリット校 贈呈式

1階建て校舎 1棟 4教室の支援



11/8

ジャムバンディ校 贈呈式

2階建て校舎 1棟 4教室の支援



11/10

ラックスミナラン校 贈呈式

1階建て校舎 1棟 2教室の支援

Day: 1

Day: 2

Day: 3

Day: 4

Day: 5



で支援頂いた手洗い場



11/7

パルスボディーニ校 贈呈式

2階建て校舎 1棟 4教室 + 手洗い場の支援



11/9

サガルマータ校 贈呈式

1階建て校舎 1棟 4教室の支援



式典終了後は、別れを名残惜しそうにする子ども達の様子が印象的でした



テーブルカットの様子



学校へ到着すると、子どもたちが列を成して、花の首飾りや花吹雪で盛大に迎えてくれました



生徒によるテコンドー披露の様子



ネパール豆知識 正式名称：ネパール連邦民主共和国

首都：カトマンズ

国土面積：14.7万平方キロメートル（北海道の約1.8倍）

宗教：ヒンドゥー教徒（81.3%）、仏教徒（9.0%）、イスラム教徒（4.4%）他

ネパールの国旗は、世界で唯一、四角形でない珍しい形。

旗の中に描かれている「月」と「太陽」は、ネパールが「月や太陽と同じように持続し発展するように」という願いが込められています。

旗の中の真紅の色は、国花のシャクナゲの色で、ネパールのナショナルカラーとなっています。

赤＝「国民の勇敢さ」、緑取りの青＝「平和」を表しています。



／知ってる？世界で一番の最高峰エベレストの別名称／

ヒマラヤ山脈の最高峰エベレストは中国・チベット自治区とネパールの国境にあるので、それぞれの国で違った名前前で呼ばれます。

中国名ではチョモランマ（大地の女神の意）、ネパール名ではサガルマータ（大空の頭の意）と言います！

カンボジア 学校建設



贈呈式に集まった生徒と
カンボジア政府代表者からの挨拶の様子

日本の支援者を迎えて 学校贈呈式が開催されました

カンボジア・ブノンペン事務所では、新型コロナウイルス流行後一時的に日本の方々の受け入れを停止していましたが、9月より受け入れを再開し、現地での研究補助や式典への参加、生徒達との交流のためのコーディネートを実施しています。カンボジアの医療システムが未だ脆弱なため、日本から訪問される方々、訪問先の現地の教員、生徒、コミュニティの皆様を安全に第二に、策定した感染防止ガイドラインを厳守しながらコーディネートを実施しています。

今年に入り、JHPを通してカンボジアに訪問された日本の方々は合計15名になり、11月には日本の支援者の方々、学校、地方関係当局、コミュニティの人々と共に、新校舎を正式に学校に受け渡すための贈呈式をバットアン州にて開催しました。贈呈式には約500名の人々が参加し、新たな学校の門出を祝いました。

式典の中で生徒を代表して中学3年生のチヨム・カニヤさんより、次の誓いの言葉がありました。

- 『①全ての教科の勉強に励み、優秀な生徒になること。
そしてタケノコ*として、この国を先導できるような力を持つ
良い子ども、良い友人になること。
- ②このコミュニケーションを支援していただく、政府の方々、日本のNPO、JHP、
そして日本の支援者の皆様に尊敬し、感謝すること。
- ③いただいた貴重な施設を永遠に使用できるように、大切に使用すること。』

*タケノコ：カンボジアのことわざで、タケノコは将来大きな竹に成長することから、今はタケノコのように小さいが、将来は大きく成長することを願い、使用されています。



テラカットの様子



新しく完成された校舎

今回建設した中学校は、生徒数が急増したため、教室の数が足りず、同敷地内にある小学校の教室を間借りして授業を実施していました。

また、中学校2年生の1クラス内の人数は70名を超え授業を実施していたため、授業の質を保つことが非常に困難な環境でした。

新校舎が建設されなかった場合、新学期は1部制（午前・午後で運営することができず、生徒達は午前、もしくは午後のどちらかのみ学校で勉強することになり、カンボジア教育省が定める最低授業時間数を確保することができず、学習の遅れは、さらに深刻なものになっていたことが予測されます。

日本の皆様の温かいご支援により、多くの子ども達が質の高い教育を受けられるようになり、それがカンボジアの発展に繋がっています。

皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。



校庭へ植える桜の苗木の植樹の様子

成人のための識字教育



第4期 識字クラスが開講しました！

2022年9月1日より、JHPにとって第4期目となる識字クラスが、コンボンチャム州サンダエックコミュニティ内にある非識字率が高い4村にて、開講しました。第4期識字クラスの概要は以下の通りになります。

- 受講人数合計：100名（男性：27名 女性：73名）
- カウンターパート：サンダエックコミュニティオフィス
- スーパーバイザー（1名）、アシスタントスーパーバイザー（1名）
- 識字教員（4名）
- 開講時間：午後6時から8時（月曜から土曜）
- 開講期間：2022年9月～2023年4月



▲ 識字クラスの様子

8月31日に実施した開講式では、サンダエックコミュニティ長より、

「このような素晴らしい機会をいただき、JHPと日本の支援者の皆様には感謝しています。多くの成人が内戦が原因で学校に通えず、基礎教育が受けられなかったため、読み書きができず、市場で騙されるといった不利益を被ることがあります。生徒の皆さん、頑張って8カ月間勉強を続けることを約束してください。」

と激励のスピーチをいただきました。



カンボジアでは約5人に一人が文字の読み、書きができず、その約9割は女性になります。識字能力が低いと、仕事を選ぶことができず、収入が安定した仕事を希望しても就くことができず、そのために子どもは働かなければならないという負の連鎖に陥ってしまうケースも少なくありません。

また、2021年にカンボジア教育・青少年・スポーツ省が公式に発表した統計では、小学校への入学率は100%ですが、中学校は57%、高校は30%と学年が上がるにつれ、進学率は下がります。複数の要因が考えられますが、両親が十分な教育を受けたことがなく、教育に対する理解が低いことも、進学率が低い一つの原因だと考えられています。子どもが勉強を続けるためには、両親の励みや、教育に対する理解が重要です。

識字率を向上させることは、彼らの環境に変化をもたらし、将来の貧困からの脱出を促し、カンボジアの経済そのものの発展にも繋がります。今期も、一人でも多くの受講生が読み、書きの基礎知識を習得できるように、皆様の温かいご支援をいただければ幸いです。



▲ 識字教員もトレーニングを受講



▲ 教員養成コース受講の様子



CAPは、2015年からCCH小学校とJHPが協力して行っている活動の1つで、

子どもたちが芸術に親しむことを目的とした活動を行っています。

子どもたちは芸術に関する感性を身につけ、自分自身の気持ちや個性、主張について様々な活動を通して学びます。

現在の参加人数は50～60名程度です。

今回は、その中から一部をご紹介します。

*写真撮影時にマスクを外している写真があります。



ストーリーパフォーマンス

グループのメンバーでお話をしました。
はじめに子どもたちは何の役がやりたいのかを
選び、選んだ役に合うようなお話を作りました。
より上手に演じることができるよう、衣装も手作りしました。



NomPopokさんによる 栄養指導の様子

毎回の活動で、NomPopok*さんより栄養価の
高いお菓子を購入し提供しています。月1回の
栄養指導教室を子どもたちは楽しみにしています。



*NomPopok(会社):
カンボジアの子ども達が健康を考慮せずに作られた市販のお菓子に
口にして注目に値する健康的なお菓子をツールとして、健康的で
栄養ある食生活の大切さについて、子ども達に伝える取り組みを実施されています。



CCHの子どもたちは、学校の勉強の他に職業訓練として、パソコンや英語を学んでいます。シャンプーやネイルカラー技術もその一つです。
この度、大阪で複数のヘアサロンGive(ギブ)を展開されている、有限会社スマイル様から資金のご支援を受けて、
本格的なメイクアップ技術の習得を目指したプロジェクトを実施することになりました。

「CCHメイクアップ基礎習得プロジェクト」概要

point ① 実施期間：2022年4月～2023年3月

年長の生徒2名がプノンペン市内にあるヘアサロンに通い、メイクアップ技術のトレーニングを受けます(1回/月)。2名は、オーナーから直接、技術指導を受けます。

point ②

指導を受けた年長者2名が、CCH内の器材を使って、技術習得を希望する低学年生徒16名へ習ってきたことを教えます(随時)。指導力も養われます。



ヘアサロンで技術を習得する2名の生徒

CCHの下級生に技術を教える様子

技術指導をしてくださる、カティアサロンのオーナー

「私は、2004年にタイでメイクアップを学び、翌年自分のヘアサロンをオープンしました。

現在は、立地の良い美しい場所に2軒のヘアサロンを運営しています。

プノンペンや地方州から多くの講習生を受け入れて、貧しい講習生たちを支援しています。」



プロのトレーニングを受ける生徒

「私は2014年から2人の弟と双子の妹と共にCCHで暮らしています。

私は以前、CCHでシャンプーやストレートヘア、ネイルカラー等を練習し、友達に教えていたことがありますが、十分な時間教わった訳ではないので、詳しくは分かりませんでした。きちんとトレーニングを受けて、メイクアップのスキルを磨きたいと思っています。」



トレーニングは月に1度のはずが・・・

サロンオーナーのご厚意もあって、お手伝いを兼ねてほぼ毎日通っています。

技術習得には1年かかるはずが・・・

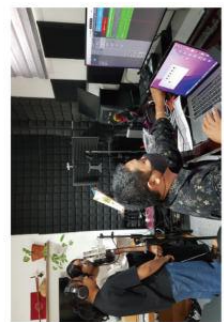
毎日熱心に学んでいるため、めきめき上達してきました。今では重要な戦力とか。10月は結婚式のラッシュのため、生徒の1人は住み込みで頑張っていました。

カンボジアの平均月収は200ドル前後ですが・・・

2名はチップを1日に15ドルから20ドルもらっています。



JICA草の根技術協力事業 『カンボジアの子どもたちに音楽と美術の楽しさを』 カンボジア全土での芸術教育普及に向けた取り組みがスタート！



授業で使用する音源データの
シリーディングの様子



教科書の使い方の説明を
真剣に聞くタケオ州の先生方



2016年8月、約5年半に渡り
実施してきた『初等科芸術教育支援事業』。

コロナ禍における長期の学校閉鎖で、授業の開始が遅れていましたが、この度カンボジア国内の感染状況が落ち着いたので、授業が再開されました。7月12・13日には、タケオ州の小学校4校に教師用指導書と1・3年生までの教科書を各校50冊ずつ配布しました。

※4・6年生の教科書は、11月に行われる4・6年生向けの研修に合わせて配布されます。

同時にJHPスタッフより、指導書と教科書の使い方や授業を行う上での注意事項やフィードバックシートの記入の方法等を詳しく説明しました。

また、音楽の授業で必要な各曲の音源データは、SNS上で各校の先生方とやり取りできる形を整えることで、各先生がそれぞれの携帯電話から音源を流すことができるようにしています。授業実践から得た情報は、教科書をより指導しやすいものにするための改訂に使用されます。

コロナ禍における長期の学校閉鎖で、授業の開始が遅れていましたが、この度カンボジア国内の感染状況が落ち着いたので、授業が再開されました。7月12・13日には、タケオ州の小学校4校に教師用指導書と1・3年生までの教科書を各校50冊ずつ配布しました。

Special
Interview
Vol.2

プログラムのオフィサー
Nou Chantha
ノウ・チャンター

勤務歴: 4年
2016-2021年の
初等科芸術教育支援事業にて
プログラムのオフィサー、図工を担当。

インタビュー第2弾をお届けします！

プログラムのオフィサーとして、主に図工の分野を担当しました

- 01 JHPで働き始める前(または、2016・2021事業に取り組む前)に芸術教育について持っていたイメージを教えてください。
- 『私は、芸術を学習することは、手本やルールに忠実に、美しく歌ったり作ったりすることだと思っていました。私自身が子どもの時は、社会科の教科書の中の手本をそっくり写して描かなければなりませんでした。絵画の授業でも、工作の授業でも、教師は創造性を生かしたものだといふよりも、実生活で使えるもの(花飾りや、かぶなど)を作らせます。歌唱の授業では、子どもたちはカンボジアの歌を正しく歌うことを教わり、楽しい活動は、あまりありませんでした。』
- *カンボジアの芸術教科は環境、社会科の一部になっています
- 02 2016・2021芸術教育事業を経て、持っているイメージは変わりましたか？変わった場合は、どんなところが変わりましたか？
- 『はい、変わりました。芸術教科(音楽・美術)の授業を通して、単に芸術について学ぶだけではなく子どもたちは創造力や問題解決能力、コミュニケーション能力等の21世紀型スキルを養うことができるということが分かりました。』

- 03 子どもの時に受ける芸術教育の大切さをどのように感じていますか？
- 『芸術教育は、子どもたち自身の想像力を高め、作品について考えたり説明したりといったコミュニケーションスキルも養うことができるので、大切だと感じています。また、他の教科の学習に対する意欲付けにもなります。』
- 04 2016・2021年の事業実施中、良かったこと、大変だったこと、やりがいを感じたことは何ですか？
- ◆良かったこと:
- 『プロジェクトに参加したメンバーが協力し、仲良く活動できたこと。』
- ◆大変だったこと:
- 『カンボジア人の私たちは、芸術そのものに対するスキルはありませんでしたが、教育者ではなかったため、時々、芸術を通じた情操教育の内容よりも、芸術のスキル重視の教え方をしがちになってしまったことです。』
- ◆やりがいを感じたこと:
- 『絵を描くにしても、正しく手本通りに描くといった従来のカンボジアの教育法を改革した教科書を作ることができ、その教育について理解できたことです。』
- 05 読者へ一言メッセージ
- 『カンボジアの教育分野へのご支援に、心より感謝申し上げます。』

高木凛々子チャリティーコンサート

7月30日(土)浜離宮朝日ホールにて開催

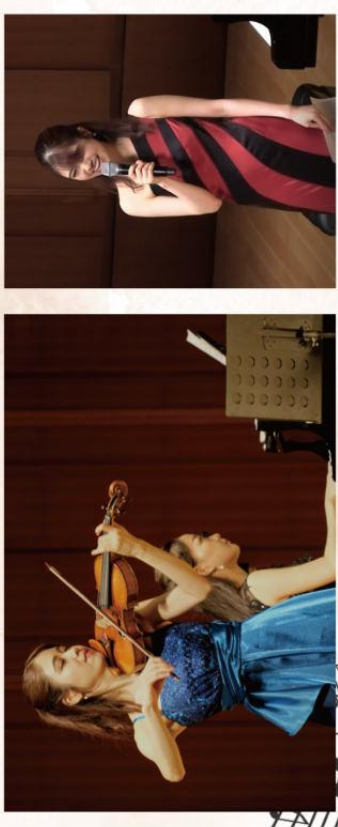
これまで16回の回数を重ねてまいりました「天満敦子チャリティーコンサート」は、天満さんが体調を開されたため、今年は中止せざるを得ないかと思われましたが、せつかくの交流の場を無為にしだくなくという思いから、代わり得る方をお願いできないか探しておりましたところ、縁あって、将来を嘱望される若手ホープのウエイオリニスト・高木凛々子さん、ピアニスト・五十嵐薫子さんにご出演をお願いいただき、「高木凛々子チャリティーコンサート」として開催することができました。

当日は、クラシックから日本の曲までを含む14曲の、お2人の思の合った演奏のほか、「子ども達に本物の音楽の楽しさを届けたい」という想いで小学校を訪問し、クラシック演奏活動を長く続けていらっしゃる高木さんの想いをお話いただく場もありました。

長年、当コンサートへご来場下さっている方はもちろん、このコンサートをきっかけに、JHPの活動を初めて知って下さる方も多くいらつしやう、「素晴らしい演奏を聞けて、チャリティー支援にも参加できて良かった」とのお声もいただきました。

なお、次回第18回のチャリティーコンサートは、2023年7月29日(土)に浜離宮朝日ホールでの開催を予定しています。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

報告	収入合計	1,258,000円
	支出合計	1,076,534円
	収益(寄付金込み)	181,466円
	来場者数	295名



チャリティーカレンダー2023

好評販売中☆☆

毎年好評いただいている「JHPチャリティーカレンダー」の2023年版が完成しました。

カレンダータイトルは『Smile Moment』。世界共通言語とも言える「笑顔」。その表情は、個性をまぎれませんが、等しく温かい幸せな気持ちや安心感を与えてくれる不思議なパワーがあると感づいています。

今年もカンボジア・ネパールの子どもたちの溢れる笑顔が詰まったカレンダーとなりました。

このカレンダーを通して、世界との繋がりを感じ、手に取ってくださる皆さまに、明るい笑顔の輪が広がっていきますように。



▲表紙サンプル

▲中面サンプル

チャリティーカレンダーの収益は、カンボジア・ネパールの子どもたちの教育支援のため、JHPの活動に役立てられます。

壁掛け: 1冊 500円
卓上: 1冊 800円

送料
壁掛け 1~5冊: 90円 / 6~10冊: 180円
卓上 1~3冊: 90円 / 4~6冊: 180円



ご購入情報はこちらから！